



高校野球のマナーとルールを学ぼう (第91回)

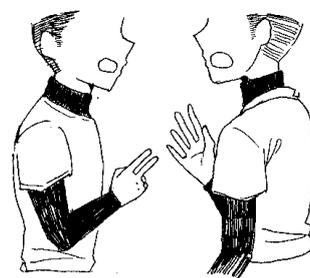


一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

グラウンドでの試合を振り返り、高校野球の大切なマナーとルールを学びましょう。
あなたの「なぜ? どうして?」にわかりやすくお答えします。

ルール編 フェアプレイの徹底「偶々(たまたま)異なったユニフォームを着ているが、野球を通じた仲間」

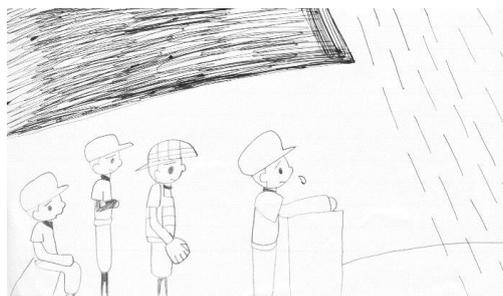
攻守交代を決める際に球審が、両チームのキャプテンに試合に臨む心構えや留意点を伝達します。そこで最も大切なことは相手を尊重し、フェアプレイを試合終了時まで徹底することをお互いが確認することです。「偶々異なったユニフォームを着ているが、**両チームの選手は野球を通じての仲間という気持ち**が重要。その精神で全力でプレイすること」つまり、Fマークに込められた「フェアプレイ」の精神と実践を説いています。ある試合で、試合中にキャプテンがこの言葉を発し、正々堂々とプレイしてくれました。また、試合前の緊張感に包まれた(攻守交代を決める)場で、キャプテン、責任教師、監督、ボールボーイに、**簡潔明瞭に要点のみ伝える審判員のコミュニケーション力**も重要ではないでしょうか。



マナー編 「天候不順による試合の一時停止と再開」

第100回選手権記念大会は、西日本豪雨の影響を受け開会式が中止となりましたが、以降は非常な酷暑とは言え、天候不順により打ち切り(コールドゲーム)となった試合は発生しませんでした。筆者はかつて降雨で試合を一時止めざるを得ない状況となり、再開にあたってのルール適用に不備があった経験があります。秋季地区大会、秋季県大会を迎えるこれからは、午後からの天候不順(雷雨など)、秋雨前線の停滞と天候不順に見まわれる可能性もあります。ルールを的確に適用し、スムーズな試合運行を図っていきましょう。

公認野球規則【4.03(e)】では「ホームチームの打順表が球審に手渡されると同時に、競技場の全責任は、各審判員に託される。そして、その時を期して、球審は天候、競技場の状態などに応じて、試合打ち切りの宣告、試合の一時停止あるいは試合再開などに関する唯一の決定者となる。球審はプレイを中断した後、少なくとも30分を経過するまでは、打ち切りを命じてはならない。また球審はプレイ再開の可能性があると確信すれば、一時停止の状態を延長しても差し支えない。」とあり、悪天候等でプレイを中断した後は、少なくとも30分は様子を見なければなりません。また、【4.03原注】では、「(前段省略)球審は、いかなる場合でも、試合を完了するように努力しなければならない。試合完了の確信があれば、球審は、その権限において30分にわたる”一時停止”を何度繰り返しても、あくまで試合を続行するように努め、試合の打ち切りを命じるのは、その試合を完了させる可能性がないと思われる場合だけである。」とあります。攻守交代を決める試合前の打合せで、天候不順が予想される場合にはコールドゲーム宣告の可能性にも言及しておく必要があり、試合を開始した以上は完了させる努力を惜しむことは許されません。



(注) 野球規則上は上述のとおりですが、天候、球場使用の制約条件等で、運営本部の判断により30分を待たずに試合中止となる場合もあります。

イラスト協力: 兵庫県立姫路工業高等学校デザイン科
ルール編 大澤 渚 さん(2年)
マナー編 重見 綾乃 さん(2年)